

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課

担当課長名：本田 武志

事業名	東武鉄道東武野田線（清水公園駅～梅郷駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	千葉県
起終点	自：千葉県野田市清水公園駅2丁目 至：千葉県野田市花井新田3丁目			延長	2.9 km
事業概要					
既存の踏切11箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消を図るとともに、鉄道により分断された市街地の一体化を図る					
平成17年度事業化	平成17年度都市計画決定	平成20年度用地着手	平成20年度工事着手		
全体事業費	350億円	事業進捗率	12%	供用済延長	0 km
計画交通量	241,913台時/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/事業全体 281/338億円 事業費：261/308億円 維持管理費：20/30億円	総便益 (残事業)/事業全体 393/393億円 走行時間短縮便益 322/322億円 走行経費減少便益：51/51億円 交通事故減少便益：20/20億円	基準年	
	(残事業)			平成29年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量	: B/C=1.1~1.3 (交通量 ±10%)		(残事業) 交通量	: B/C= ~ (交通量 ±10%)	
事業費	: B/C=1.1~1.3 (事業費 ±10%)		事業費	: B/C= ~ (事業費 ±10%)	
事業期間	: B/C= ~ (事業期間±20%)		事業期間	: B/C= ~ (事業期間±20%)	
事業の効果等					
旅行速度の向上、踏切遮断時間の解消、踏切事故の解消の効果が期待される					
関係する地方公共団体等の意見					
・特になし					
事業評価監視委員会の意見					
・特になし					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
・H21～H25で踏切事故が1件（うち死亡事故1件）					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
・事業費ベース12%、用地取得率100%、残事業：高架橋工事等					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
—					
施設の構造や工法の変更等					
・特になし					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比（B/C）は1.2であり、費用対効果が見込めること。 ・踏切除却による渋滞の解消及び走行性の向上を図れること、また、踏切事故が解消すること。 ・救急搬送時間が短縮されること。 ・大規模災害発生時の輸送ルートの確保により防災機能が向上すること。 ・周辺市街地における区画整理や駅前広場、道路の整備推進により市街地の一体化を図れること。 					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。